

読むと上京のまちが♡好き♡になる

かみぎょう くしゃきょう

上京区社協ニュース

Kamigyo Ward Council of Social Welfare
Publicity Papers No.27 Aug. 2020

社会福祉法人京都市上京区社会福祉協議会（上京区社協）

〒602-8511 京都市上京区今出川通室町西入

堀出し町 285 番地 上京区総合庁舎 2 階

TEL.075-432-9535

FAX.075-432-9536

WEB.http://kamigyo-syakyu.jp/

上京区社協 ウェブサイトはこちら▶



あなたと一緒に考えたい、コロナ禍後の上京のまちづくり！ コロナ禍の中でも、安心して暮らし続けられる まちづくりが、上京のまちでは行われています。

今回の上京区社協ニュースでは、コロナ禍による緊急事態宣言の間も
まちづくり活動を続けられた3つの団体を紹介します。

- 「寄り添い一緒に考える」
- 「つながり続ける」
- 「できることを取り組む」

みなさんのお話から、コロナ禍後の上京のまちが見えてきました。



休業期間中も、様々な人の居場所としてオープン

——バザールカフェ（室町学区）

店長 小島 麗華 さん / 松浦 千恵 さん / 狭間 明日実 さん

緊急事態宣言が出て、カフェを休業することにしましたが、みんなでぎりぎりまで考え抜いた結果、居場所のみ行うことにしました。1日1時間でも2時間でも開けることで助かる人がいる…そうだといいなと思いました。

バザールカフェは23年前、多様な人の居場所・就労の場として始まりました。当時は「カフェづくり」という作業をつくることで、本来別々の立場の人が目的を持って集まれるようにしました。なので、ここのウッドデッキやベンチは来てくださった方による手づくりです。完璧じゃなくても、みんなでつくることで、みんなに出番がありました。今、心配しているのは「コロナにならないこと」ではなく、「コロナになった後のその人たち」です。今後、その人たちの居場所、仕事、生きる気力が必要になる

と思っています。私たちに何ができるのか、これからも考え続けたいと思います。居場所は、「多様な人がその人らしく生きられる場所」だけでなく、「できない人に見える人が寄り添うことで一緒にできるようになる場所」だと思っています。来てくださった方がゆらぎながら生きることができ、迷ったり困ったりしたら寄り添って一緒に考えてくれる人がいる…バザールカフェでは、そういうことがあちこちで起きています。来てくださった方が安心できる場を、これからもみんなでつくっていききたいです。バザールカフェは、中は意外と広いです。緑もお庭もあります。一度、のぞいてみてくださいね。

バザールカフェ
ウェブサイトはこちら▶



手づくりマスクを集め、障害のある子ども達に寄付

——株式会社ゆめ工房（仁和学区）

代表取締役 益川 恒平 さん / 益川 由美子 さん

以前から、商店としてお客さんや業者さんとやり取りするだけでなく、上京のまちが暮らしやすくなるような面白いことをしてみたいと思っていました。

うちの商店は小児用補装具（身体障害がある子どもの、体の機能を補うための装具）をつくっています。お客さんとは、商品をつくった後もつながり続け、様々な相談を受けさせていただいています。うちで用意できないものをよその業者さんに頼むこともありますし、窓口を紹介することもあります。そうしたつながりの中で、マスクプロジェクトを始めることになりました。マスクプロジェクトは、もともと保護者の方からの「子ども用のマスクがない」というお話がきっかけでした。2～3月のマスク不足が深刻化していた時でしたし、障害

のあるお子さんの中にはこまめに替えが必要なものもあります。うちのSNSで呼びかけたり新聞に取り上げていただいたり…気が付けば4,000枚以上集まりました。

マスクをお渡しした方には、「使ってる様子の写真を撮って送ってね」とお願いしています。その写真をうちのSNSに掲載させていただくことで、つくっていただいた方にお礼することができれば、と思います。うちはこれからも障害のある人とならない人をつなぎたいです。…障害のある人もない人もお互いに困っていることを支えあい、頼りあえるようになったら、今以上に住み良い上京のまちになるかもしれませんね。

株式会社ゆめ工房
ウェブサイトはこちら▶



▲左から益川 由美子さん、益川 恒平さん



取材中にも、バスを乗り継いでマスクをお持ちいただいた方がいらっしゃいました。

日本で暮らす外国人に、多言語や「やさしい日本語」で情報発信

——外国人女性の会 パルヨン

代表理事 ハッカライネン・ニーナさん

外国人女性の会パルヨンは、日本で暮らす外国人女性を支援する目的で2007年から上京区などで活動しています。パルヨンはフィンランド語で「たくさん」という意味で、「たくさんの交流の場で友達をたくさんつくり、たくさんの情報をもらうことができるように」と名づけました。

コロナ禍の中で、良かったのはネットを利用したコミュニケーションが広がったことです。私たちはコロナ禍前から「外国人女性のための何でもしゃべれる会プー」を開催していますが、最近はネット上で開催することで、京都以外で暮らしている方も参加しやすくなりました。一方で、コロナ禍のために故郷の国に帰れなくなったり仕事が無くなったりした外国人が、京都にはたくさんいます。

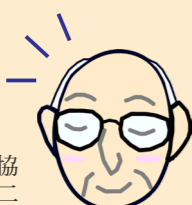
そこで、最近のパルヨンはSNSで、多言語や外国人にもわかりやすい日本語の表記方法「やさしい日本語」を使った生活情報を発信しています。また、「外国人女性のためのサポート電話」にも力を入れています。もし、近所に困っている外国人がいたら、声をかけていただけるとありがたいです。パルヨンにつないでいただいたら、私たちはできることをします。今年、パルヨンは市民憲章、京の公共人材大賞をいただきました。授賞式では他の団体と交流することができ、これからは横のつながりも深めたいと思いました。外国人も日本人も住みやすい上京のまちづくりのために、これからも頑張りたいと思います。

外国人女性の会パルヨン
ウェブサイトはこちら▶



上林会長の 手紙

上京区社協
会長 上林 研二



「特徴のある上京のまちづくり」みなさんの活動から、上京区では、町（規則、組織）づくりや街（施設、基盤）づくりのどちらにも偏らない「まちづくり」が進行中だと分かります。創意工夫があり、居住者を敬愛の対象とし、誰一人取り残さず支える「仕組みと人」を得つつあることが見て取れます。この記事をお読みいただいたみなさんも、ぜひご参加ください。よろしくお祈りします。

今年度の上京区社協ニュースでは、コロナ禍における区内の動きをお伝えします。また、反対側の面には、学区内の動きをお伝える学区ニュースを掲載しています。



見やすい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

社会福祉法人
京都市上京区社会福祉協議会



私たちは持続可能な開発目標を支援しています。